

学習指導改善調査 実践報告書

一人一人の考えを深めるために、単元を貫く言語活動を位置付けた指導の工夫 ～第3学年国語「もうすぐ雨に」の実践を通して

五泉市立五泉小学校 藤井 香利

1. はじめに

中学年の国語「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書をしようとする態度を育てる。」である。3年生で出会う文学作品で、どのような力を身に付け、文学作品を好きになり、読むことへの意識を高めることができるかを考えた時、単元を貫く言語活動を位置付けた指導を工夫することを考えた。ポップカードで作品のおもしろさを紹介するという単元を貫く言語活動を位置付けたことで、「児童の主体的な読み」の姿が具現できると考えた。

また、読むこと的能力を育てるために、段落相互の関係や場面の移り変わり、登場人物の気持ちの変化について叙述を基に想像して読むことを重点的に指導することにした。活用場面として、友達に紹介する本を選んで読み、そのよさを伝えていく活動を取り入れた。このように、有効な方策を探りながら、児童一人一人の考えを深められるよう授業改善に取り組んだ。

2. 目指す子どもの姿

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①単元の目標に向かって意欲的に学習に取り組む子ども②友達とかかわり、自分の考えを広めたり、深めたりする子ども③習得した学びを活用し、自分の表現に生かせる子ども |
|---|

3. 実践の概要

(1) 単元名 読んで考えたことをポップにまとめて紹介しよう

教材名 「もうすぐ雨に」

(2) 単元のねらい

- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに想像して読むことができる。(読)
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。(読)
- 「言葉のたから箱」を参照し自分の感想を表す言葉を増やすことができる。(言)

(3) 単元の指導の構想

本単元で取り上げる「もうすぐ雨に」は、起承転結が明確なファンタジー作品である。ファンタジー作品は、物語の構成である「始まり」「出来事の発生」「出来事の変化」「結び」が捉えやすく、不思議な出来事を体験する登場人物の気持ちの変化もつかみやすい。

「場面の移り変わり」を捉えるに当たっては、不思議な出来事が起こる前と後を比べながら、起承転結を意識させるようにしたい。「登場人物の性格や気持ちの変化」に関しては、「ぼく」の優しさという一貫して描かれている性格と「ぼく」が動物の言葉に驚き、受け止めようとした序盤から、言葉が分からなくても言いたいことが分かるようになるまでの終盤までの気持ちの変化を捉えさせ

たい。

単元を貫く言語活動として、「ポップカード」で友達におすすめの本を紹介するという活動を位置付ける。「もうすぐ雨に」で習得した学びを活用し、自分で選んだ本の紹介文を書いていく。作品のテーマを読み取りまとめる言語活動は、読書に対する興味・関心を広げることにつながると考える。

(4) 単元の指導計画

次	時	主な学習活動		
第一 次	1	○学習課題をつかみ、単元の見通しをもつ。 ・ファンタジー作品のおもしろさについて意見交換し、大まかな学習計画を立てる。 ・ポップカードの書き方を確認する。	ブックトークを聞き、本を紹介するポップを作る意欲をもつ。	
		単元を貫く学習課題 「読んで考えたことをポップカードにまとめて紹介しよう」		本単元における <u>読み</u> の <u>観点</u> をとらえる。
第二 次	2 3 4 5 6 7 8	○教科書教材「もうすぐ雨に」を読み、 <u>構成</u> 、 <u>出来事</u> 、 <u>登場人物</u> について読み取り、ポップカードを書く。	物語の <u>構成</u> 始まり—出来事(事件)が起こる—出来事(事件)が変化する—結びを学ぶ	
		1 「もうすぐ雨に」を読み、 <u>物語の構成</u> について考える。		
		2 場面の移り変わりや出来事がどのように起こっているかを考える。		
		3 「ぼく」の行動や会話に着目して、「ぼく」の気持ちを考える。		
		4 出来事が起きる前と後の「ぼく」の <u>気持ちの変化</u> について友達と意見交換しながら読み取る。(本時)		ぼくの <u>気持ちの変化</u> を読み取る
		5 「おもしろい」「好きだな」と思うところを選び、理由をあげてまとめる。		ポップカードを書き、 <u>友達と意見交流をする</u>
6 ポップカードを仕上げ、グループで交流する。				
第三 次	朝読 書	○自分が選んだ本のポップカードを書く。 ・「もうすぐ雨に」で学習した観点に沿って書き、交流する。 ・ポップカードと本を他の3年生のクラスに紹介し、評価してもらう。	習得した <u>学び</u> を <u>活用</u> し本を紹介するポップを作る。	

4. 授業の実際

(1) 本時のねらい

ふしぎな出来事がおきた時の「ぼく」の気持ちの変化を考える。

(2) 本時で身に付けさせたい知識や技能

場面の移り変わりに注視しながら、登場人物の気持ちの変化を読み取る力

(3) 課題を解決するために必要な知識や技能

- ・場面と場面を関連付けて捉える力
- ・登場人物の行動や会話から、心情を考える力

(4) 児童の実態と指導の構え

初発の感想では、場面のおもしろさや不思議さについての感想をもつことはできたが、主人公のぼくの気持ちを考えた感想は書かれていなかった。つまり、物語を読むときに、人物や起こった出

来事に着目して読むという読み方が身に付いていないと考えられる。このような子どもに、物語の出来事や登場人物の気持ちの変化を捉えて読むという課題や読みの視点を与えることで、子どもの読む力をつけることができると考える。

本時は、ふしぎな出来事が起きた時の「ぼく」の気持ちの変化を考えさせる。ぼくの行動や言葉「まさか」→「いったい、どうなっているんだろう」→「じっけん、じっけん」→「やっぱり」→「遠くから楽しそうな声」を場面の移り変わりの順に整理させる。その後、その言葉を手がかりにして「Q&Aトーク」で話し合わせる。一人では気持ちの変化に気付かない子どもも、「Q&Aトーク」で関わり合うことで、気持ちの変化を捉えることができると考える。学習の終末では、「ポップで紹介する」時間を設定し、交流を通して広がった考えをポップで表現させ、自覚を深めさせたい。

本時を迎えるまでは、**ぼくの気持ちの変化に注意して読み取ってはいないもの**と考える。このような子どもたちに以下のような手立てを行い、本時のねらいであるぼくの気持ちの変化を捉えさせていく。

< 課題に向き合う段階 >

【手立て1】

不思議な出来事が起きた時の「ぼく」の気持ちの変化を捉えるために、行動を示した叙述のカードを用意し、並べ替えをさせる。

登場人物ごとに、主人公が投げかけた言葉、すずみたいな音、それを聞いた後に聞こえた言葉、その後の主人公の言動が考える視点となる。

「まさか」→「いったい、どうなっているんだろう」→「じっけん、じっけん」→「やっぱり」→「遠くから楽しそうな声」

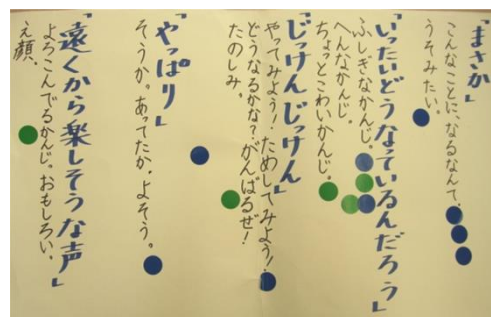
場面ごとに「ぼく」の行動を示した叙述を子どもたちと並べ替えることで、「ぼく」の気持ち徐徐に変化したことを捉えさせる。

< 友達に向き合う段階 >

【手立て2】

話し合いを活発にするために、「Q&Aトーク」で話し合いを行う。

友達と向き合う段階では、話し合いを通して考えの深まりを実感させたい。しかし、話し合いの場を与えただけでは、何を根拠に話し合ったらよいか分からない。そこで、本時は「Q&Aトーク」を使って話し合わせる。「Q&Aトーク」とは、文章表現から問いを見つけ、友達同士でその答えを考える活動である。「Q&Aトーク」のやり方は、あらかじめ伝えておく。



Q&Aトーク

- ・一人の問いに対して、4人がそれぞれの答えを話す。
- ・答えは、自分の日常と結び付けて話すことができるとよい。
- ・出された考えを全て書く。

Q&Aトークで出された考え

本時の課題は、「ぼく」の気持ちがどのように変化したかを考える。子どもたちは、Q&Aトークを通して以下のような気持ちを考えることができると予想する。

「まさか」・・・信じられない。
 「いったいどうなっているのだろう」・・・疑問が大きくなる。
 「じっけん、じっけん」・・・証拠を探したい。不思議の正体を知りたい。
 「やっぱり」・・・予想が当たった。
 「遠くから楽しそうな声」・・・楽しい。わくわくしてきた。

【手立て3】
 グループで話し合ったことを掲示し、自分の考えと比較する活動を位置づける。

「Q&Aトーク」の後、他のグループがどのような考えか、自分の考えと比較する活動を位置づける。これは、他のグループの考えを知り、考えの広がりをおねらった活動である。目的をもってグループの掲示を見るために、自分の参考にしたいよい考えにはシールを貼っていく。

＜自分に向き合う段階＞

【手立て4】
 「ぼく」の気持ちの変化をポップカードに書く。

場面ごとの「ぼく」の気持ちの変化を考え、グループの考えを見合った後、ポップカードを書く時間を位置付ける。文章を書くことが苦手な子には、教師が例として作ったポップカードを参考にさせる。

「ぼく」は、はじめは信じられない気持ちだったけれど、実験をしたり、予想があたりしてうれしくなり、最後はわくわくする気持ちになった。

(5) 本時の授業

時間	教師の働き掛けと想定される子どもの反応
3	<p>＜課題に向き合う段階＞</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>＜課題＞ 「ぼく」の気持ちの変化を考え、ポップカードに書こう。</p> </div> <p>T 出来事が変化する場面での「ぼく」の行動を考えました。一緒に順番を考えてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ぼくの行動を出来事が起きた順番に並び替える。【手立て1】</p> </div> <p>C 「まさか」→「いったい、どうなっているんだろう」→「じっけん、じっけん」→「やっぱり」→「遠くから楽しそうな声」の順番です。</p>
10	<p>＜友だちに向き合う段階＞</p> <p>T 「ぼく」の気持ちがどのように変化をしたか、「Q&Aトーク」で話し合おう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>話し合いを活発にするために、「Q&Aトーク」で話し合いを行う。【手立て2】</p> </div> <p>T 問いと答えを繰り返すQ&Aトークで、班の考えを書きましょう。 C1 「まさか」ってどういう気持ちかな。</p>

- C 2 「信じられない。疑う時に使うよね。」
 C 3 「びっくりしたときにも使うよ。」
 C 1 「まさか」って思うときがあるかな。
 C 2 「まさか全部のテストで100点取るなんて」
 C 3 「まさかこんなところで、先生に会うなんて」
 C 1 「いったいどうなっているんだろう」はどんな気持ちかな。
 C 2 「不思議だなあ。信じられない。」
 C 1 「まさか」と同じかな。
 C 3 「いったいのほうがもっと信じられないんじゃないかな。」
 C 4 「全然、信じられない。とか。」
 C 1 「いったいどうなっているんだろう。」ってどんな時に思うかな。
 C 2 「自分では、思いつかないとき」
 C 1 「じっけん、じっけん」
 C 2 「なんか楽しそう。わくわくしてる感じ。」
 C 3 「理科の実験とか楽しいよね。」
 C 1 「やっぱり」は、どんな気持ちかな。
 C 2 「予想が当たった。」
 C 3 「うれしいとか、やったという気持ち。」
 Tグループの話し合いが終わったら掲示します。



友達と関わり、考えを広げる姿①

25

グループで話し合ったことを掲示し、自分の考えと比較する活動を位置づける。

【手立て3】



友達と関わり、考えを広げる姿②

- C 4 「じっけん、じっけん」は、楽しそうもいけれどわくわくしているという考えもいいな。

10

<自分に向き合う段階>

「ぼく」の気持ちの変化をポップカードに書く。【手立て4】

Tポップに「ぼく」の気持ちの変化について考えたことをまとめましょう。

「ぼく」は、はじめは信じられない気持ちだったが、実験をしたり、予想が当たったりしてうれしくなり、最後はわくわくする気持ちになった。



自分の考えを確かにする姿

(6) 評価

ふしぎな出来事が起きた時の「ぼく」の気持ちの変化を友達と意見交流しながら読み取ることができる。

4, おわりに (成果と課題)

本実践を終え、一番の成果と言えることは、児童の学習意欲の向上が見られたことである。学習意欲の向上は、児童の学習に取り組む姿勢の変化となって表れている。教師が提示した課題に沿って文学作品を読み進めるというこれまでの学習から脱却し、ポップカード作りを目標にした「単元を貫く言語活動」を位置づけた学習へ授業を改善した成果である。このような指導過程による学習は、児童が主体的な「学び」を獲得することにつながった。その結果、児童は文章の細部まで読み取るようになり、思考力の育成に結び付いたと考える。

友達と関わる活動を位置づけたことで、自分なりの読みをもった児童同士が意見交流し、読みが広がったり、深まったりしていった。これは、読み取りに自信がもてない児童への支援となった。

今後は、読み取らせる文学作品に応じた「単元を貫く言語活動」を工夫し、学習の幅を広げていくことに取り組んでいきたい。そうすることで、児童の学習意欲はさらに高まり、学力の向上に結び付くものとする。



活用場面: 紹介する本のポップ



友達のポップを読み、読書への意欲を高める姿

